

晴読雨読

『図解 PubMed の使い方』改訂第4版
インターネットで医学文献を探す

岩下 愛、山下ユミ / 共著

東京 日本医学図書館協会

2010年3月25日発行

A4版 105p 定価 1,905円+税



私は医学図書館に勤め始めて3年くらいはPubMedを使った記憶があまりない。初めに担当した業務が図書の目録整理で、カウンターに出ることはほとんどなかったからだと思う。現在ではなくてはならないデータベースになったが、PubMedを使ったことがない病院図書館員だっているのではないだろうか。そんな人にもぜひ手にとっていただきたいのが、『図解 PubMed の使い方 第4版』である。

『図解 PubMed の使い方』の初版は、阿部信一氏と奥出麻里氏の共著で2001年に日本医学図書館協会から出版された。この本のような、各ページにたっぷりと画面キャプチャを使った日本語のPubMed解説書は他になく、図書館員はもちろん、日本のPubMedユーザにとって非常にありがたい本だった。初版後、数年ごとに第3版まで版を重ねてきたが、今回、2010年3月に発行された第4版では著者が交代することになった。それで、著者として、国立国際医療センター図書室（現・国立国際医療研究センター図書室）の岩下愛さんと共に私も編集に携わることができたのはとても貴重な経験だった。

著者は変わったものの、第4版の構成は基本的に前版までの構成に沿っている。大きな変更点としては、まずMy NCBIとLinkOutのために新たな章を設けたことが挙げられる。近年機能を拡充してきたMy NCBIと、機関ごとに独自の電子ジャーナルリンク等を表示させることができるLinkOut機能の設定方法について詳しく記述し、リンクリゾルバとの連携機能であるOutside Toolについてもコラムで解説した。また、各章に数編ずつ挿入されているコラムを差し替えた。この本の中でのコラムは、軽い文章でちょっと一息というよりは、本文には盛り込めなかった内容で、より詳細に、あるいは深く伝えたいことを記述する場所として主に利用されてきた。これらのコラムの中で内容が古くなったものに代えて、「PubMedの原点」「自動用語マッピングの仕組み」など、読みごたえのある7編の新しいコラムを加えて内容を充実させた。そして、カラーページが登場したのも大変嬉しい点である。

PubMedはインターフェースや細かい機能が実に頻繁に変更されるので、あまり編集に時間をかけないことが望ましい。今回も最初の打ち合わせから校了までのスケジュールは数か月であったが、初校が終わってからLimits機能へのアクセス方法が変わってしまったので、急きょ本文と画像を差し替えなければならなかった。

この本が病院図書館／病院図書室の皆さまにとってPubMedの機能をよく理解し、効果的な検索を行うための一助となれば幸いである。

(京都府立医科大学附属図書館／山下ユミ)